

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年11月26日 NO.61



オー君 「ねえねえ！花ちゃん。この前の『国立てくてく』で『テン』のお話があっただろう。それで、おいらすぐに校長室の前にすっ飛（と）んで行ったんだ。そしたら、かべにきれいな葉っぱがいっぱいはってあったよ。」

花ちゃん 「そうね。私も気がついたわ。あれは、校長先生が八王子のおうちの近くの野山（のやま）をてくてくした時に集めた葉っぱだそうですよ。」

オー君 「そうか、そろそろ秋（あき）も深まってきて、いろいろな葉っぱが色づく季節（きせつ）なんだね。」

花ちゃん 「そうね。西門のサクラの葉も赤や黄色に色づいて、とてもきれいね。」

オー君 「西門だけでなく、校庭のあちこちがきれいになってきたね。」

花ちゃん 「色づく秋ですね。『秋』ってステキですね。」

モンタ博士 「そうだね。野山や街（まち）が色づいてきたから、秋を感じるんだね。」

オー君 「秋を感じるか……。いい言葉だな。」

モンタ博士 「そうだね。野山や街の木々のようす、それから、光や風のようすなどから季節を感じることはとっても大切なことで、意味（いみ）のあることなんだね。カレンダーを見て、ああ『秋』だなんて言いたくないね。」

オー君 「大切なこととは、自分の体で、五感（ごかん）を使（つか）って、直接（ちよくせつ）季節を感じとることなんですね。」

花ちゃん 「ところで、モンタ博士。いろいろな色や形の葉っぱがありますね。」

オー君 「そうだね。赤や黄色、それから、きれいなオレンジ色や茶色。」

花ちゃん 「同じ黄色でもずいぶんちがいがああるのね。」

オー君 「そうだね。赤は赤でも、いろいろな赤があるんだ。」

花ちゃん 「まるで、『色の宝石箱』（ほうせきばこ）みたいね。」

モンタ博士 「なるほど、『色の宝石箱』か。いい言葉だね。」

オー君 「まるで、『色の展覧会』（てんらんかい）みたいだ。」

モンタ博士 「なるほど、『色の展覧会』か。これまたいい言葉だね。」

花ちゃん 「いろいろな形のちがいと、いろいろな色のちがいがコラボして（いっしょになって）、とてもステキですね。」

オー君 「そうだね。見ていてあきないね。」

花ちゃん 「本当にそうですね。」

オー君 「でも、どうしてこんなにきれいなんだ。どうしてこんな色になるんだ。」

花ちゃん 「そうね。不思議（ふしぎ）ね。」

オー君 「よーし。葉っぱが色づく不思議を発見しようよ。花ちゃん！」

花ちゃん 「そうね、『色づく葉っぱ探検隊』（たんけんたい）の出発（しゅっぱつ）ね。」

オー君 「さあ！行こう！レッツ・ゴー！」

